

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171000161
法人名	医療法人 清友会
事業所名	グループホーム やどりぎ
訪問調査日	平成20年3月19日
評価確定日	平成20年5月13日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にして下さい。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000161		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム やどりぎ		
所在地	佐賀市大和町大字久池井字二本松1635番地 (電話) 0952-51-2821		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(平成19年3月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階(一部三階)建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 760 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	64 歳	最高	84 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清友病院・野口クリニック・小川歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中にある民家改修型の純和風一戸建てで、広く立派な庭園がある。庭の花木には季節の花が咲いており、庭で採れた梅の実が梅干や焼酎漬けにして入居者の食卓に上っている。塀は低く、外部から庭がよく見えるなど、地域から隔離されていない様子が窺える。経営母体が病院で医療連携体制ができており、入居者や家族の安心に繋がっている。普段から近所の子どもが気軽に遊びに来たり、近隣住民と気軽に話が出来る関係が築かれている。職員の笑顔が素晴らしく、地域に溶け込んだ地域密着型のケアが提供されている事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は検討会議や運営推進会議で取り上げ、事業所独自の理念「笑顔」を作り上げた。収納倉庫など清潔感を出すように整理整頓をし、ホーム内の改造も行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で確認し、地域密着型サービスの確認とケアの振り返りや見直しにつなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価や自己評価の結果を報告し、事業所の取り組みを説明している。毎回主となるテーマを決め、より地域に理解されるホームになるよう活発な意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の面会時に必ず声を掛け、話をして情報交換することを心掛けている。入居者個々の連絡ノートがあり、家族の面会時に記入をお願いするなど意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は検討会に諮り、運営に反映させる体制ができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃活動や行事に参加するなど地元と交流することを心掛けている。自治会に入会して公役も引き受けるなど、地域住民と日常的な付き合いをしており、回覧板も回ってくる。近所の小さな子どもが遊びに来るなど日常的な交流があっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	気は長く心は丸くを基本に、全てのケアに通じる「笑顔」で接するという事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務開始時や毎月の会議で理念の確認を行い、理念の共有に努めている。職員の入居者に対する声掛けや態度から、理念に沿った介護が実施されている事が窺える。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域の清掃活動や行事に参加するなど地元と交流することを心掛けている。自治会に入会して地域住民と日常的な付き合いをしており、回覧板も回ってくる。近所の小さな子どもが遊びに来るなど日常的な交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、検討会議や運営推進会議で取り上げ、事業所独自の理念を作りあげたり、清潔感を出すようにホーム内を改造をするなどサービスの改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民代表や行政職員・入居者・家族などからなり、2ヶ月に1度開催されている。議事録他関係書類も残されている。運営推進会議では外部評価や自己評価の結果を報告し、事業所の取り組みを説明している。毎回、主となるテーマを決め、より地域に理解されるホームになるよう意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の法人が行政との窓口になっており、事業所独自では行政の担当者とは行き来する機会はないが、担当者から電話がかかるなど情報が伝わる体制はできている。問題点や判らないことがあれば法人本部を通して連絡し、相談できる関係ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	活動報告や活動予定が記載されたホーム便りを発行し、家族に送っている。家族の面会時に必ず声を掛け話をすることを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。面会の少ない家族には電話で連絡をとり、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等申立先を明記するとともに、運営規程に苦情処理手順を明記し、家族に説明している。入居者個々の家族との連絡ノートがあり、家族の面会時に記入をお願いするなど意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は検討会に諮り、運営に反映させる体制ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人本部において決定されるが、ホームの特性を考え異動は最小限に配慮されている。替わる場合は異動期間を設け、入居者には替わることを早目に伝えて混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の事業所内研修と月2~3回の法人内研修が開催されている。外部の研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すればできる限り参加できるよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の同業者と交流しており、相互訪問や情報交換を通してサービスの質の向上に活かしている。同一法人内の職員とは勉強会など交流する機会を多く持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や計画作成担当者が病院や自宅を訪問したりホームの見学を通して、顔馴染みの関係をつくりながらスムーズに入居できる支援を行っている。併設病院や施設を利用されている方には職員が出向き、入居前に信頼関係が築けるよう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	着物の着付けや編み物・繕い物、料理法や昔の生活情報などを入居者から教えてもらったり、職員と共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活を通して入居者と会話することを心掛けており、普段の何気ない会話の中から思いや意向を汲み取る努力をしている。希望や意思を伝えることが困難な入居者には本人の様子や態度から察したり、家族の面会時に情報を得るなどの努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族と十分話し合っ具体的介護計画が立てられている。職員は日々の暮らしの中で気付いた情報を主治医や家族に伝え、検討会に諮り介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと状態の変化があった時はその都度見直しが行われている。検討会は毎月開催され介護計画の確認が行われており、現状に即した計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体が病院であり医療連携体制ができていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できる体制がある。家族や入居者の要望で病院の送迎や買物、美容院利用などの外出支援も柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、契約時に入居者や家族に説明している。協力医療機関と連携しての受診が多いが、希望があれば、かかりつけ医での受診ができるよう支援している。通院などの送迎も本人や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・看とりケア対応に関する指針」があり、入居時に説明がされている。医師とも相談し入居者や家族の意思を確認しながら取り組んでおり、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の尊厳を大切にした対応がなされており、一人ひとりの気持ちの尊重、言葉かけ、トイレの開閉など特に気をつけている。管理者は職員に、日頃から理念を念頭に置いて感情的にならないよう指導しており、職員は心得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは緩やかで入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。塗り絵や手芸などの趣味やレクリエーション、買物や外出など入居者のペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳や後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。特におやつは入居者の楽しみになるように、好みを大切にしたり共同できるような支援がなされている。	○	共に暮している家族と一緒に食事をする大切さを考え、職員と入居者が一緒に食事をする事についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	望まれる入居者には毎日の入浴が可能である。仲の良い友人と一緒に入る方もおられ、ゆっくり入浴を楽しめる支援がされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、職員が優しい声掛けをしたり時間や順番を変えたりして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物や裁縫・ぬり絵、園芸・菜園づくりなど入居者の生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。バスハイクなど楽しい気晴らしの支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は車で移動であるが、駐車場を活用しての散歩や庭での園芸作業など入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。庭は広く、入居者はいつでも庭に出て木や花を觀賞しながら過ごせるように支援されている。	○	散歩や買物など、楽しみながら日常的に外出できる支援の一層の充実を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面からの配慮で玄関からの自由な出入りは一部制限があるが、利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒に出かける等、自由な暮らしを支える支援に努めている。庭にはいつでも出られるよう居間には施錠していない。	○	日中、鍵をかけることを常態化させることなく、鍵をかけないで支援していく工夫について、引き続き取り組んでいく事が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の避難誘導訓練を実施している。法人合同で消火器の使用法や災害対策など研修訓練が実施され、職員は参加している。地域において避難訓練などは実施されていない。	○	地域住民の参加や協力を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士がみており、栄養バランスの把握はできている。水分はいつでも摂取できるよう支援されており、1日1リットル以上の水分摂取を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は庭が一望できるように位置している。入居者はソファや椅子に腰掛け、庭を眺めながらゆっくりとした時間を過ごされている。日差しが強い時はレースのカーテンで調節されている。トイレは広く車イス使用も可能となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きとフローリングがあり、好みの物を持ち込むことができる。壁には写真や手芸品などが飾られ、生活感が感じられる居室作りがなされている。仏壇やテーブル・椅子・タンスなどを持参されている入居者もいる。		